

登録コード	J5190200	開講年度	2026				
授業科目	産業組織					担当教員	本多 純
英文授業名	Industrial Organizations					副担当	
単位数	4	講義期間	通年	曜日・時限	月曜・4時限 火曜・2時限	対象学年	(20カリ対象科目) 経：2年
講義室	経法第4講義室	経法第1講義室	授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	経法20初・応用経済						
	専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。					⇔	専門知識を応用・実践する力として、特定の産業や企業の実態を自ら調査・分析し、経済学的ロジックを用いて競争環境や政策・規制の影響を多角的に解剖するとともに、他者との議論を通じて説得力のある解決策や提言を導き出す力を身につける。
	【2020年度以降カリキュラム対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、金融、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。					⇔	専門領域での基礎知識として、企業の競争戦略や独占禁止法の枠組みを多様な産業実態に適用し、市場構造や規制の影響を客観的な調査・データに基づき多角的に分析することで、現実の複雑な経済事象を論理的に解明する力を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム	ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース						
(4)授業の概要	産業組織論は、ミクロ経済学を応用して、主に消費者の購買行動や企業の価格・非価格戦略を分析する経済学の一分野です。本講義では、企業間競争がうまく働かないケースや、それに対する規制・制度設計の必要性を、実際の事例に基づいて考察します。 毎週の2コマ分の講義は、それぞれ独立したパートから構成されます。 1. 産業組織論A 企業の競争戦略や独占禁止法に基づくさまざまな事例を通じて、規制の役割を幅広く学びます。たとえば、価格カルテルや企業買収など、実際に問題となったケースを取り上げ、競争当局の措置や企業の対応策を検証しながら、ミクロ経済学的な視点で「競争が機能する条件」や「企業行動のインセンティブ」などを明らかにしていきます。 2. 産業組織論B 近年、アマゾンやグーグル（アルファベット）、アップル、ネットフリックスなどの海外巨大企業や、楽天・食ベログ・じゃらん・SUUMOなど日本の代表的プラットフォーム企業が、読書・映画視聴・音楽鑑賞から外食・旅行・住居選択まで、私たちの生活に大きく浸透しています。本パートでは、こうしたプラットフォーム・ビジネスの根幹にある市場の特性（ネットワーク効果など）に焦点を当て、ミクロ経済学の枠組みを使ってその原動力を客観的・体系的に学びます。事例や実証研究を取り上げながら、市場特性をどのようにビジネスモデルに組み込んでいるのか、価格戦略（サービス利用料金体系、配達など）や非価格戦略（評価システム、購買履歴に基づくおすすめ、無料試着サービスなど）をどのように設計しているのかを考察します。あわせて、巨大化するプラットフォームに対して競争当局が懸念する市場競争への弊害や、その規制方法についても議論します。 講義の水準は、経済学入門・ゲーム理論を学んだ学生を対象とした応用ミクロ経済学の入門講座として設定しており、理論と事例を往復しながら経済学的な論理構築・応用力を身につけることを目指します。						
(5)授業計画	【授業設計の考え方】 本講義は、前期に産業組織論の理論的枠組みと多様な産業事例を学び、後期にその知識を駆使して自ら産業・企業分析を行う通年プロジェクトです。 【前期：産業組織論A】 本講義では、従来の理論から事例へという流れを逆転させ、特定の産業で今何が起きているかという問いから出発します。決算資料や政策ドキュメント、実態調査報告書を読み解きながら、背後にある経済学的ロジックを抽出していきます。 第1回 【イントロダクション】 産業組織論の視角と最新資料の活用方法（企業・業界分析の基礎） 第2回 【食料品業界】 物価高騰下における価格転嫁の経済学（交渉力・垂直的關係） 第3回 【エネルギー市場】 カルテル・談合の実態と独占禁止法の役割（ゲーム理論・囚人のジレンマ・リニエンシ制度） 第4回 【サービス・コンテンツ産業】 知的財産（IP）戦略とライセンス契約の構造（垂直的制限・参入障壁） 第5回 【銀行・金融業】 地域独占の是非とM&Aによる市場構造の変化（市場画定・合併審査） 第6回 【公共インフラ産業】 自然独占の性質と公的規制の理論（自然独占・社会的余剰） 第7回 【情報通信・メディア】 データの集中とプラットフォームの経済性（ネットワーク効果） 第8回 【シェアリングエコノミー】 C to C市場におけるマッチングと信頼構築（情報の非対称性・シグナリング） 第9回 【中小企業・サプライチェーン】 垂直的關係と下請取引における諸課題（取引費用・ホールドア						

(5)授業計画	ップ問題) 第10回 【製造業・ロボット産業】 自動化戦略とグローバル市場での競争優位（差別化・学習効果・競争優位） 第11回 【モバイルエコシステム】 OS・アプリストアの囲い込みと最新の法的規制（ロックイン効果・直接規制） 第12回 【人材マッチング産業】 労働市場の流動化とギグワークの経済分析（マッチング理論・情報の非対称性） 第13回 【生成AI産業】 技術革新が将来の雇用や生産性に与える影響（創造的破壊・イノベーション） 第14回 【次世代エネルギー・宇宙産業】 不確実性の高い新市場における市場の失敗と政策（外部性・不確実性下の投資） 第15回 【全体総括】 産業横断的な戦略と日本経済の成長戦略（理論の応用と実践の統合）＋授業アンケート ----- 期末試験 【後期：産業組織論B】 本計画は、各グループのプロジェクト進捗や議論の深掘り度合いに応じて、順序や内容を柔軟に調整します。 第1回 【ガイダンス】 授業の進め方とグループ編成 第2回 【問いの設定と仮説構築】 産業・業界の選択と問い・目的の特定 第3回 【リサーチ・デザイン】 仮説を検証するための調査・データ（一次資料）の特定と収集計画 第4回 【産業構造の予備調査】 市場規模や主要プレイヤー、規制環境の把握（問題の背景整理） 第5回 【中間報告①：問いとメカニズムの提示】 分析の目的と、想定される経済学的ロジックの発表 第6回 【議論とリサーチの修正】 フィードバックを受けた仮説の再構築と調査範囲の調整 第7回 【データによる実態検証】 決算資料や統計を用いた、市場構造と企業行動の定量的・定性的分析 第8回 【経済学的フレームワークの適用と深掘り】 産業組織論のフレームワーク（価格戦略、参入障壁等）を用いたメカニズムの解明 第9回 【中間報告②：分析結果の提示】 データに基づいた仮説の検証結果と、残された課題の報告 第10回 【討論と深掘り】 他グループからの視点を取り入れた、分析の死角の補完 第11回 【解決策・処方箋の検討】 企業の戦略的変更や、政策・規制（独占禁止法等）による是正案の考察 第12回 【効果予測と社会への影響】 提案した処方箋が、市場の効率性や消費者便益に与える影響の評価 第13回 【最終成果報告：産業のトータル解剖】 問いから解決策までを一貫した論理で提示するプレゼンテーション 第14回 【全体討論とピア・レビュー】 クラス全体での総括的な議論と、グループ間の相互評価 第15回 【振り返りとレポート執筆】 プロセスの再考察と最終レポートへの適用＋授業アンケート ----- レポート提出
(6)成績評価の方法	【前期（産業組織論A）】 ・（最低限5回分の）定期的な確認問題（10%）： eALPSによる理解の定着確認。 ・授業内課題（40%）：（最低限7回分の）講義中の議論に対する記述式意見提出。 ・期末試験（50%）： 講義室にてeALPSを用いて実施。全編の総合的な理解度を判定。 すべてeALPSを利用して行います。 【後期（産業組織論B）】 ・授業内でのグループ発表および提出物（80%） 調査内容の論理性、データの裏付け、資料の完成度、およびプレゼンテーションを総合的に評価します。なお、評価の公平性を期すため、報告準備における各メンバーの役割分担や寄与度（グループ内での貢献）についても、報告後のフィードバック等を通じて加味する場合があります。 ・授業内での討論・質疑応答への貢献（20%） 発表に対する質問・コメントの鋭さや建設性を評価します。単なる感想ではなく、論理に基づいた疑問・新しいデータの提示・他者の意見を踏まえた議論の深掘りなど、クラス全体の学びを一段深めるような発言を高く評価します。
(7)成績評価の基準	【前期（産業組織論A）】 S（秀）90-100点： 正当な理由なき欠席を除き、概ね全ての課題を提出し、かつ試験等で授業の例題を超える大きく超える高度な応用問題を解くことができる。 A（優）80-89点： 正当な理由なき欠席を除き、概ね全ての課題を提出し、かつ授業の例題を発展させた

(7)成績評価の基準	応用問題を解くことができる。 B（良） 70-79点：課題の提出率が標準的な水準（8割程度）に達しており、かつ授業の例題に基づいた標準的な応用問題を解くことができる。 C（可） 60-69点：課題の提出率が標準的な水準（6割程度）に達しており、かつ授業で示した例題と同レベルの問題を解くことができる。 【後期（産業組織論B）】 授業計画に示したグループ報告およびクラスにおける討論等の貢献度によって評価します。 具体的には、新入生ゼミナールでの理解・説明の基礎の上に、調査（データ）活用・論理的分析を加えた下記の4つの観点から評価します。 (i) 調査・分析の適切さ： 市場調査（データ）、決算資料、政策ドキュメント等を自ら収集し、産業組織論Aで学んだ経済学的フレームワークを正しく適用して業界構造を解剖できている。 (ii) プレゼンテーションの論理性： 情報を整理し、聞き手が業界の核心を理解できるよう、論理的な構成と視覚的な工夫（図解等）を用いて説明できている。 (iii) 双方向の議論への貢献： 質疑応答において的確な根拠を持って回答し、他者の報告に対しても建設的な批判や新たな視点を提供することで、クラス全体の学びを深めている。 (iv) 独自の洞察・提言： 既存情報の整理に留まらず、分析結果から導き出される独自の考察や、現実の政策・企業戦略に対する評価、あるいは改善策を提示できている。 (i)から(iv)の4項目を満たし、かつ教員や周囲を深く納得させるレベルにあれば「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、3項目までできていれば「やや上にある」、2項目までできていれば「水準にある」と判断します。
(8)事前事後学習の内容	【前期（産業組織論A）】 本講義では、提出を義務付ける事前課題（レポート等）は課しませんが、授業内での議論への貢献や自身の理解度を深めるため、以下の自習サイクルを習慣化してください。 ・ロジックの再構築（復習） 配布資料を再読し、扱った論理の核心を整理してください。友人や家族にその仕組みを解説できるレベルを目指す、と、理解が定着します。 ・経済学の視点でニュースを見る（予習・応用） 日常的にニュース（日経新聞等）に触れ、授業で扱った論理が当てはまりそうな事例を探してください。自分が使っているサブスクやコンビニの棚にある製品など、身近な事例への当てはめが、授業中の鋭い発言やテストでの応用力に直結します。 【後期（産業組織論B）】 ・事前学習： 担当業界のIR資料、業界団体レポート、政府白書（経済財政白書、ものづくり白書等）の収集と読解。グループ内での議論を通じた分析の組み立てと、報告資料の作成。 ・事後学習： 授業での質疑応答や教員からのフィードバックを反映させた、最終レポートの執筆。他グループの報告内容を自らの分析対象と比較し、共通点や相違点を整理する。
(9)履修上の注意	本講義は、学生主体の探究と対話によって学びを深めるため、以下の点に留意してください。 ・論理的・データリテラシーの重視 前期の「産業組織論A」で修得した経済学的ロジックは、後期の分析における基盤です。数式の計算能力以上に、データから何が起きているのかを論理的に導き出す思考力を重視します。そのため、原則として前期・後期を通じた一貫受講を推奨します。 ・グループワークにおける責任と主体的参加 特に後期はグループ単位でのプロジェクトが中心となります。自身の欠席や準備不足は、グループ全体の進捗や評価に直結するという強い責任感を持ってください。対面での出席と積極的な議論への貢献は、本講義において最低限の義務となります。 ・デジタルデバイスの活用 情報の検索、共有、プレゼンテーション資料の作成にネットワーク接続可能なデバイス（PC推奨）を多用します。eALPS等を通じた共同編集や資料提供を前提とするため、毎回の持参が必須です。 ・正解のない問いへの試行錯誤 現実の経済に唯一の正解はありません。正解を待つのではなく、自ら仮説を立て、批判的なフィードバックを糧に論理を磨き続ける粘り強さが求められます。この試行錯誤のプロセスそのものが、実社会で役立つ課題解決力に繋がります。

(10)質問,相談への対応	・対話による深掘り 質問を議論を磨くエンジンと捉え、活発な意見交換を歓迎します。グループ内での議論はもちろん、報告後の質疑応答においても、教員・学生といった立場を超えた活発な意見交換を強く推奨します。単なる正解の確認に留まらず、異なる視点を取り入れることで、自分たちの論理を磨き上げ、独自の洞察へと昇華させるプロセスを大切にしてください。 ・継続的なフィードバックとリサーチ支援 授業時間内に収まらなかった深い議論や、資料収集・分析手法に関する個別相談は、eALPS等のフォーラムやメッセージ機能で随時受け付けます。プレゼンテーション後の振り返り（リフレクション）や、他グループへの追加質問・情報共有も歓迎します。クラス全体で優れた視点を共有し、互いの分析精度をボトムアップさせていく場を目指します。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	本講義では固定の教科書は指定せず、以下の資料をeALPSを通じて提供し、学生自らの探究をサポートします。 ・産業・企業分析のためのリソース・ガイド（データ収集編） 信頼性の高い一次資料（EDINET、省庁の白書、公正取引委員会の実態調査等）へのアクセス方法をまとめたリストです。単なる情報の集め方だけでなく、経済学の視点を通して調査・データをどう解釈するかという着眼点についても解説します。 ・ケーススタディ・アーカイブ（実務・審決例編） 独占禁止法上の重要事案や、国内外の先進的な企業戦略の事例集です。理論が実際の法執行やビジネスの意思決定にどう反映されたかを学ぶ、生きた教材です。 ・分析スキルと理論の深掘り資料（応用・発展編） 「産業組織論A」の理論を現実に応用するための分析フレームワークの解説資料や、最新の学術論文を紹介します。グループ独自の視点を磨き、分析の専門性を極めたい学生向けの発展資料です。